

5 ○ 新生児の出生時の平均身長は、約50cmで、4歳頃には約100cmになる。

問題3 正解 4 ●——高齢者によくみられる疾患 重要度★★

●老化には個人差があるが、徐々に自立度が低下し、さまざまな疾患がみられるようになる。糖尿病や関節リウマチ、心筋梗塞など、高齢者によくみられる疾患について、特徴を押さえておくことが必要である。

教科書(共) CHAPTER 1・SECTION 5

- 1 × 1型糖尿病は、自己免疫などによるインスリンの分泌障害によるもので、子どもや若い人に多くみられる。2型糖尿病は、遺伝的要因に生活習慣の要因が加わり、インスリンの分泌量の減少や機能低下によって発症し、中高年以降に多くみられる。
- 2 × 関節リウマチは中高年の女性に多い疾患で、1日のなかでも朝方に手のこわばりがみられるのが特徴である。
- 3 × 疥癬は、ウイルスではなく、疥癬虫(ヒゼンダニ)が皮膚表面に寄生して起こる感染症である。
- 4 ○ 心筋梗塞の主症状は、長く続く前胸部の強い痛みや圧迫感だが、痛みが首や背中、左腕、上腹部に生じることもある。
- 5 × 糖尿病で生じる合併症は、糖尿病性網膜症、糖尿病性腎症、糖尿病性神経症の3つである。

問題4 正解 1 ●——老化 重要度★★

●老化によって、視覚や聴覚などの感覚機能が低下していく。これらは、身体機能の低下と相まって、事故の原因ともなるため、変化の内容を理解することが重要である。

教科書(共) CHAPTER 1・SECTION 1

- 1 ○ 老化に伴う視覚の変化として、近方視力が低下することにより、老眼になる。また、視野が狭くなり、色や明るさによる識別能力が低下するといった特徴も挙げられる。
- 2 × 老化に伴う聴覚の変化として、特に高音域の音が聞き取りにくくなる。
- 3 × 老化に伴う味覚の変化として、特に感受性が低下するのは、塩味である。
- 4 × 老化に伴う嗅覚の変化として、においを感じ取りにくくなる。
- 5 × 老化に伴う皮膚感覚の変化として、熱さ・冷たさ、痛みなどに対する感覚が低下する。

問題5 正解 5 ●——国際生活機能分類(ICF) 重要度★★

●国際生活機能分類(ICF)を構成する基本的な要素と作用について確実に押さえる。

教科書(共) CHAPTER 1・SECTION 3

- 1 × 社会的な不利益(社会的不利)という障害のマイナス面を中心にした考え方は、ICFの前身である、ICIDH(国際障害分類)のものである。
- 2 × ICFでは、障害を個人の問題として捉える医学モデルと、社会によって生み出される問題として捉える社会モデルを統合して、解決方法を考えることが重要だとしている。
- 3 × ICFでは、3つの生活機能(心身機能・身体構造、活動、参加)の間においても、双方向的な作用があるものとしている。
- 4 × 生活機能における活動とは、歩行・食事・排泄などの生活行為の遂行状態を指すものである。社会的役割の実行は、生活機能における参加に含まれる。
- 5 ○ ICFでは、3つの生活機能に相互に影響を与えるものとして、2つの背景因子(環境因子・個人因子)が示されている。

問題6 正解 2 ●——循環器系の疾患 重要度★★★

●心臓や血管などが含まれる循環器系は、生命活動に不可欠な器官である。循環器系の疾患は、老化による脈拍の乱れ、不健全な生活習慣に起因する動脈硬化などにより引き起こされる点に注意する。

教科書(共) CHAPTER 1・SECTION 2

- 1 × 高血圧(I度)の基準は、収縮期血圧が140mmHg以上、拡張期血圧が90mmHg以上である。
- 2 ○ 心房細動では、心臓の内部、特に左心房に血の塊(血栓)ができ、それが突然はがれて脳動脈に流れ込み、脳の血管を閉塞し脳塞栓(心原性脳塞栓症)を発症する危険性が高い。
- 3 × 狭心症では、冠状動脈が一時的に狭窄して元に戻り、血流が改善するため、心筋の壊死は起こらない。心筋梗塞は、冠状動脈が閉塞したままになって、心筋が壊死してしまう。
- 4 × 急性心筋梗塞は、激しい痛みが30分以上続くことが特徴である。
- 5 × 心不全は心臓の機能が低下し、十分な血液が全身に送り出されなくなった状態をいう。右心不全では浮腫が出現し、左心不全ではチアノーゼや息苦しさが出現する。